

優秀賞

支え合う喜び

曽我 愛里奈

岐阜市立長森中学校二年（岐阜県）

スポーツというと、やはり走る姿や汗を流す姿、ボールをさわる姿などが思い浮かぶと思います。また、それがスポーツの魅力でもあります。しかし、どこに魅力を感じるかは人それぞれだし、私もちよつと違った面に魅力を感じます。スポーツには競技をする人と支える人が必ずいて、目立ったり活躍したりするのは競技をする人だけけど、支える人も競技者と同じ気持ちになれた瞬間や競技者のために一生懸命になれた時の喜びはとても大きなものだと思います。

なぜ私がこのような考えを持つようになったかは今自分がサポートの立場だからです。私は陸上部で活動していますが、もともと腰に持病があるため、思うように走れなかったり、練習したいのにやりきれないというとても苦しい状況です。でも私はそれを不幸だとは思わないし、逆に他の人にはわからない喜びや感動を味わうチャンスにあたえられているのかもしれないと思っています。人と同じことができない分、学ぶことは多いし、自分がこの状況の中でどう動けば、みんなが気持ちよく競技ができるのか、常に考えるようになりしました。できないからやらないではなく、では意味がないし、それはケガを理由に逃げているだけです。できない時こそ頑張らなくてはな

らないと思います。しかし、前の私は、それを分かっているながら、結局はケガを言い訳にしてしまっていました。何か上手くいかないことがあると、「腰が痛いから。」と言って、周りの人どころか自分の気持ちまでごまかして現実から目をそむけたり、実力を受けとめられずにいたりしました。でも、一生懸命に練習に取り組む友達や後輩、いつも私たちのことをよく見ていてアドバイスをくれるコーチや先生と素直に接していく中で、大きな気持ちの変化が起こりました。「私にも何かできるのではないか。陸上部のために全力をつきたい。」と心から思いました。それからは自分で考えて、ラインを引いたり、スタートの合図をしたり、後輩には走り方のアドバイスをしたりもしました。すると、達成感と同時に、コーチや先生の苦労もわかって、いつからか感謝の気持ちを持ちながら笑顔で働けるようになりました。また、人のために働くというのはこんなに幸せなことなんだなと感じました。今も、

「自分も思いきり走れたらいいのに。」

と想ったりするけれど、それは心の中にもち続けながらサポートを頑張っていきたいし、これからもいろいろな視点から自分や周りを見ていきたいと思っています。

サポートという立場は、悔しくて苦しいような感じがするかもしれないけれど、その分いいこともたくさんあります。例えば、人が練習しているのを見て、良い所や課題を見つければ自分のための勉強にもなるし、選手と同じ気持ちになって応援すれば一緒に喜んだり一緒に泣いたりできます。サポートの立場でしかできないことがたくさんあるのです。だから私は、今とてもいい経験をしていると

思うし、自分なりの目標もできてきました。部活でみんなと活動で
きるのは、もう一年もないけれど、自分の立場に誇りを持ちながら
心からお互いを応援できる部活〃を目指して、自分がすべきこと
を頑張っていきたいです。